英国、イングリッシュウイスキーに地理的表示の保護を付与

スコットランド、ウェールズ、アイルランドの業界団体は、シングルモルトの規則が長年の製造基準を弱めるおそれがあると指摘する

2026年11月21日（土）



英国のウイスキー業界は、環境・食料・農村地域省から地理的表示（GI）の認定を受け、「English Whisky」と「English Whiskey」の名称が法的に保護されることになった。一方、この認定をきっかけに、何をイングリッシュ・シングルモルトとして販売できるのかをめぐる議論も起きている。スコットランド、ウェールズ、アイルランドの業界団体に加え、イングランドの一部生産者も、新たな定義によって確立された製造基準が弱まるおそれがあると警告している。

地理的表示（GI）は、特定の土地と一連の製造規則に結び付いた製品名を保護する制度だ。ウイスキーの場合、規則が定めるのは産地だけではない。どの生産者が高級カテゴリーを示す用語を使用できるか、製品を小売業者や消費者にどう提示するか、また国内外の市場で各国のカテゴリーがど

う競争するかにも影響する。

10月、Scotch Whisky Association、Welsh Whisky Association、Irish Whiskey Associationは共同声明を発表し、English WhiskyのGI認定について、手続きと規則の実際の運用の両面で「不整合」があるとの懸念は変わらないと表明した。

「私たちが代表するウイスキー生産者は、世界水準のウイスキーを造る、誇り高い長い歴史と他に並ぶもののない伝統を持っています」と3団体は述べた。「世界中の何百万人もの人々に親しまれている高品質なシングルモルトカテゴリーを支える、質の高い定義を望んでいます」

主な争点は、シングルモルトと呼ぶために、製造工程のどの程度を一カ所で行わなければならないかだ。批判する側は、スコッチウイスキーの規則では糖化、発酵、蒸留を一つの蒸留所で行う必要がある一方、イングランドの規則ではこれらの工程を複数の場所に分けることが認められていると指摘する。

Jackton Distilleryのマネージングディレクター、Jaynie Keanは、イングリッシュウイスキーにGIを設ける考えを支持し、英国産の大麦を使用するという規則にも賛成していると述べた。ただし、製造場所に関する規則は市場に混乱を招く可能性があると指摘した。

「スコッチウイスキーでは、糖化、発酵、蒸留のすべてを一つの蒸留所で行わなければなりません。イングランドの規則では、これらの工程を複数の場所に分けることが認められています」とKeanは述べた。「どちらも『シングルモルト』と呼べるのであれば、消費者を混乱させ、同じ用語の意味がなぜ異なるのかを小売業者が説明しなければならなくなるおそれがあります」

独立系ボトラーWhisky Craftの創業者、Sonny Charlesも同様の主張をした。イングランドの規則は「事実上、イングランドの蒸留所が、スコットランド、アイルランド、ウェールズのシングルモルト生産者に義務付けられている要件を回避できるようにするものだ」と述べた。

Charlesは、この問題は用語そのものの意味に関わると指摘する。彼の見方では、シングルモルトは単なるマーケティング上の表現ではなく、スピリッツがどのように造られたかを示すものでもある。蒸留だけを一カ所で行うことを要件とすれば、糖化や発酵の重要性が薄れかねないと主張した。糖化と発酵は、最終的なウイスキーの品質や個性に大きな役割を果たすという。

批判の声はイングランド以外からだけ上がっているわけではない。ブリストルのCircumstance Distillery創業者、Liam Hirtは、イングランドのGIには評価できる点が多いものの、規則はスコッチではなくウェールズの定義を基にすべきだったと考えている。

Hirtによると、ウェールズ方式では蒸留所がそれぞれの違いをより明確に打ち出せる一方、イングランドの枠組みでは生産者がより難しい立場に置かれる可能性がある。GIの規則に沿って製造する蒸留所は、English Whiskyを名乗りながら「スコッチと実質的に見分けがつかなくなる」一方、GIの枠外で製造する蒸留所は、より実験的な分野を担う存在となりながら、保護対象であるイングランドのカテゴリー名を使用できなくなるおそれがあると主張した。

「これは消費者にとって非常に分かりにくいものになるでしょう」とHirtは述べた。

保護された定義は、製造上の選択、表示、流通、カテゴリー間の競争に影響を及ぼすため、この議

論は飲料業界全体にとって重要だ。蒸留業者にとってGIは、製品名の価値を高め、長期的なブランド構築を後押しする可能性がある。しかし小売業者や輸入業者にとって、定義をめぐる争いは、特にシングルモルトのような馴染みのある用語がカテゴリーによって異なる意味を持ちうる場合、製品をどう分類し、説明し、比較するかという実務上の疑問につながりかねない。

この対立が市場に大きな影響を与えるとは限らないと見る人もいる。Ardgowan Distilleryのセールス・マーケティングディレクター、David Keirは、Scotch Whisky Associationが強硬な姿勢を取る理由は理解できると述べた。一方で、あくまで個人的な見解として、業界ほどには多くの飲み手にとって重要な問題ではないかもしれないとも語った。

「大半の人はシングルモルトとブレンドの違いを知りません。シングルモルトの製造工程の細かな違いに踏み込めば、ほとんどの人は関心を失うでしょう」とKeirは述べた。

この発言は、議論のより広い隔たりを示している。生産者や業界団体は、品質、アイデンティティー、公正な競争の根幹に関わると考える基準をめぐって議論している。一方、多くの消費者は、各製造工程がどこで行われたかという厳密な情報より、価格、味、ブランド、産地を重視するかもしれない。新たなGIの下でイングリッシュウイスキーが展開していくなか、保護対象となる名称をどう定義すべきかという議論は、このカテゴリーの発展をめぐる中心的な課題であり続けるだろう。